

平成 29 年度岡山短期大学幼児教育学科卒業研究発表会を実施しました。どの発表も興味深く 2 年生は研究したことを活かして、保育現場で活躍していきます！

日時：平成 30 年 1 月 12 日（金）

場所：情報処理センター3 階 D302

【言葉ゼミ】

テーマ：幼児の言葉を育てる保育者を目指して

保育現場に即応できる実践的指導力の修得をめざし、昨年度後期以来、言葉遊び、絵本・紙芝居、エプロンシアターの実践を積み重ねてきた。本発表では、全員がこれらの実践を通して獲得した学習成果と今後の課題を述べる。



【英語ゼミ】

テーマ：幼児期における英語教育——手袋シアターを題材にして

幼児が自然に楽しく英語に接する一つの方法として、各自が手袋シアターを制作し、英語を取り入れた歌遊びを入れて、実習や教室で実演し、効果的な点や改善点を考察した。



【図画工作ゼミ】

テーマ：①楽しい発表会に向けて、②実習に向けての玩具づくり、③発達段階に合わせた玩具作り、④身近な物で子どもたちが興味を持てるような玩具を作る

① 子どもが友達と一緒に楽しめる玩具づくりを研究を進めた。友達と一緒に楽しむためには遊びにおけるルール他に、子どもたち一人ひとりの個性が発揮されるよう、保育者による細やかな支援が欠かせないことを実践を通して確認した。

② 「パッチンガエル」「魚釣り遊び」など手軽に取り組み子どもたちも好きな活動の研究を進めた。楽しく繰り返し遊ぶためには繰り返し試作・リハーサルを行い、材料の強度や

特徴を周知しておくことが必要であることや、活動の対象となる子どもの発達段階に応じた意匠の工夫が必要であることを確認した。

③ 幅広い年齢層に合わせたものづくり体験について研究を進めた。発達段階に考慮しながら、子どもが主体的にもものづくり体験できる活動を組み立てるのが難しかった。一つ一つに対して褒めて認めていくことで、子どもたちが笑顔になり、活動への意欲も高まることを実践を通して学んだ。

④ 身近なもので繰り返し楽しめる玩具づくりを研究した。そのためにはデザインを工夫するなど玩具そのものの魅力づくりの他にも、活動中の保育者の言葉掛けも重要であることを実践を通して学んだ。リサイクル工作の意義についても考察を進めた。



【表現ゼミ】

テーマ：卒業研究『表現』を通して得られた学習成果 — PDCA サイクルに基づいて—
卒業研究「表現」は、現場で通用する表現力を培うことを目的として、自らの不得手と向き合い、克服するために、学内外で様々な活動を行ってきた。1年半の活動を振り返り、学習成果をPDCA サイクルに基づいて考察する。



【児童心理学ゼミ】

テーマ：触覚に着目した乳幼児の発達段階に及ぼす影響

触覚に関する先行研究において乳幼児の発達において「触覚」という視点からのアプローチによって研究されたものはほとんどない。そこで、本研究は「触覚」という観点から製作した玩具や活動中に触れる素材を通して、乳幼児の発達段階に及ぼす影響について研究することを目的とした。



【吹奏楽ゼミ】

テーマ：生きた音楽を通じた情緒教育

管楽器と打楽器による生の演奏を体感することにより、幼児の感性や表現力を養うことを目的とし、企画や演奏表現を研究実践した。



【社会ゼミ】

テーマ：ゼミ継続課題「地域の文化を児童文化財にする」

「地域の文化を保育現場で実演できる児童文化財にする」という尾崎ゼミの継続課題をPDCA サイクルに基づいて考察する。今年度の進捗は古典作品の読解と本格的民話のエプロンシアター化であった。



【教育学ゼミ】

テーマ：①保育者における「教育愛」について、②幼児期の「独り言」について

①人は誰しも誰かを愛する。保育者も子どもを「愛する」が、その「愛」とは異性同士の「愛」と同じなのであろうか？と疑問に思った。本発表は保育者の子どもへの「愛」すな

わち「教育愛」について考えていく。

②保育現場では、子どもが独り言を言っている光景をよく目にする。では何故子どもは独り言を言うのであろうか。本発表では、幼児期の「独り言」がもつ意味について考えていく。



【声楽ゼミ】

テーマ：発表会でのコーラス披露の検証と幼児教育における音楽の必要性についての考察
「子どもといっしょに発表会」に向けての取り組みと発表後の反省点を検証する。また、保育所、施設、幼稚園の三実習での学びから得た幼児に与える音楽の必要性を考察する。



【情報ゼミ】

テーマ：保育アプリと保育現場

保育現場や将来保育者になる人の中で最近使用されるようになってきている保育アプリについて、一体どのようなものがあるのかを疑問に思い、主にインターネットを利用して調べ、保育現場とどのようなかわり合いがあるかについて考える。

